

京都大学大学院訪問報告

1. 日 時 平成29年11月8日（水） 14:00～17:10
2. 参加者 1年生SGH生徒22名
3. 訪問先 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻
4. 場 所 京都大学稲森財団記念館3階中会議室
5. 内 容

- (1) 挨拶、木村 大治 教授（人類学）より説明
自己紹介の中で、福井大学に在籍していたことや、本校の名称である高志とは、越の国の古称であることにふれ、福井県を紹介。
SGHに指定されている本校の生徒が、訪問することに歓迎の意向を示した。



(2) ゼミ発表

タイトル：「エチオピアの舞踊と社会集団に関する考察ーエチオピア国立劇場における新演目の導入過程を事例としてー」

発表者：相原 進 さん（博士後期課程）

発表内容：

自己紹介の中で、なぜ舞踊を研究しているのか、なぜ芸能なのか、なぜアフリカなのかについて説明。芸によって場の雰囲気が変わったり、観客の心が動かされたりすることに興味を持ち、舞踊（芸）は虚構であると認識している。アフリカでは多種多様で複雑な表現がとられ、生活の中に舞踊が生きているため、劇場で見ることが多い日本とは異なり、アフリカでみられる日常での表現活動に興味を持ったからである。



これまでは、主に踊りの動作を、モーションキャプチャーで数学的に解析することを行ってきたが、これからは社会的（人の集まり）を通して、舞踊を担う集団や観客と演者との関係から新たな舞踊表現が創造される過程を明らかにしたい。

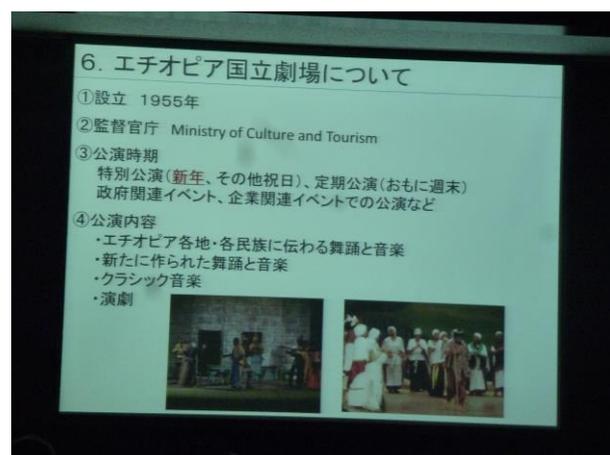
エチオピアには80以上の民族があり、オロモ、アムハラ、ソマリ、ティグレ、シダマなど多様な民族社会である。首都のアディスアベバにあるエチオピア国立劇場、文化旅行省、カルチュラルレストランを調査対象とし、参与観察、聞き取り調査、映像収録、定点カメラの設置、資料収集などにより調査を実施した。

新年公演に向けた新演目「シダマ」の導入過程の事例をとりあげる。国立劇場の運営理念として、先入観を持たずに各民族に伝わるパフォーマンスの文化的価値と芸術性を上演・演出するというのがある。（但し、このことに関して後の意見交換会で教授から、「国家のイメージの構築と発展に寄与するものであるが、逆に

政治性を強く感じるものといえるのかもしれない」との見解が述べられた。) このため、どの地域の演目にするかはランダム。各地域・民族のリサーチは随時調査が行われているが、新演目の決定前はリサーチ報告をあえて読まずに決定後に読むというスタイルである。舞踊家は全員、首都のアディスアベバ出身であるが、歌手は原則として各演目(地域)のネイティブスピーカーである。

新演目にあたり、導入過程として舞踊パートの練習が1ヶ月前からはじまるが、シニア2名を中心に練習が行われ、本番用の曲を初めて聴いて約5分程度で振り付けの方針を決める。しかし、以後本番まで「動作の決定」「お互いの動作を合わせる」「位置の決定」を続けるだけで、基本動作の習得練習はしない。知識はすでにあるという前提である。作曲に関しても、オリジナルの歌詞と音楽をもとに、シダマの伝統的な歌をベースにして音楽パートで新たに曲を作ることとなる。舞踊家たちは若い頃からずっと学び続けているため、エチオピア各地のダンスを知っており、新しい演目であっても、基本的な動作、曲の主題にふさわしい振り付けで問題なく踊ることができるという。舞踊家たちの採用は厳しく、100人から10人を選ぶ感じで、経験者しか採用されない仕組みになっている。

今後の研究として、民間の舞踊団にも目を向けたい。レストラン等ではエチオピアの文化を表象しなければならないことや、ビジネスとして評価されなければならないという側面がある。国立劇場の上演では、舞踊団のメンバーたちの知識と技術に沿って踊ることが求められている。しかし、民間では個性が求められ個人の関係でアレンジしてもよい。踊りとは、社会との関係によるものか、個人の力量によるものなのか解明したい。これまでの経験をいかして、踊りの動作をモーションキャプチャーで数学的に解析することにより研究してみたい。



(3) 交流会

教員8人と大学院生18人が3グループに分かれてフリートークが行われた。それぞれの院生が、自分が研究している国や研究内容について話し、その話に対して質問したり、逆に院生から高志高校生に対して質問が行われたりしたようで、大変有意義なものとなった。以下に挙げるのは、3グループで話し合われた内容の一

部である。

- ・ゼミ発表の続きについて、踊りはアフリカで共通なのか
- ・アフリカのイメージ
- ・アフリカを選んだ理由
- ・ウガンダの留学生から「アフリカには何か国あるのか」
- ・コンゴでふれた日本との異文化（違い）
- ・モザンビークでの体験、JICAでの経験

